

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 171-0022

所在地 東京都豊島区南池袋2-49-7池袋パークビル1F

評価機関名 パブリックサービスR&C合同会社

認証評価機関番号

機構 09 - 190

電話番号 03-4570-8659

代表者氏名 代表社員 臼井 淳



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	臼井 淳	経営	H0405013
	②	今村 和子	福祉	H1601056
	③	佐川 地恵	福祉	H1901104
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	まなざし保育園			
事業所連絡先	〒	194-0038		
	所在地	東京都町田市根岸1-2-3		
	TEL	042-554-2154		
事業所代表者氏名	水庫 寛			
契約日	2023 年 11 月 20 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023 年 11 月 27 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 2 月 17 日			
自己評価の調査票配付日	2023 年 11 月 27 日			
自己評価結果報告日	2024 年 2 月 17 日			
訪問調査日	2024 年 2 月 22 日			
評価合議日	2024 年 2 月 22 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、提出期限後に郵送されてきた調査票についても集計し、保護者一人ひとりの声が園に届くように配慮しました。 利用者調査・職員自己評価結果については、単純集計のほか、保護者や職員からのご意見も属性が個人を特定できない程度に付与するなど、保護者や職員から届いたご意見を多角的に分析できるようにし、報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024 年 3 月

31 日

事業者代表者氏名 水庫 寛



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>1)養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った自主的な子どもを育成する。 2)友だちと良く遊ぶ子ども 3)情緒の豊かな子ども 4)日常生活に必要な正しい習慣や躰のある子ども 5)道徳心の芽生えを培う</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割 人との和を計り目標達成に努める。 自発的に行動できるよう努める。</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 仕事に対し、やりがいと楽しみを感じて欲しい。</p>

調査対象

調査時点における全利用世帯を調査対象としました（複数の子どもが園を利用している世帯は、一番年齢の低い子どもの例で回答を依頼）。

調査方法

回答者（保護者）へ園より手渡しで調査票を配付し、回答票は郵送または園設置の回収箱により回収しました。

利用者総数
利用者家族総数（世帯）
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合（％）

利用者総数	110
利用者家族総数（世帯）	70
共通評価項目による調査対象者数	70
共通評価項目による調査の有効回答者数	42
利用者家族総数に対する回答者割合（％）	60.0

利用者調査全体のコメント

「大変満足」が5割を超え（52.4％）るとともに、「満足」は3割を超え（35.7％）ており、『園に概ね満足している』との保護者の割合は8割を超え（86.1％）るとい結果となりました。前回調査と比べると「大変満足」については、2割以上（24.1％）の肯定的な回答が寄せられており、大幅に改選することができています。設問別でみると全17問中、7問で8割を超える満足率（「はい」と回答した割合）を獲得しており、中でも問1、2、4については、9割の保護者が「はい」と回答しています。一方、「問17 要望や不満を第三者委員に相談できることの認知」については、毎回、課題としてあげられていますが、前回調査と同水準の4割約（38.1％）の認知率にとどまりました。今後の継続的な改善が望まれる結果となっています。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	41	0	0	1
保護者からの「はい」との回答は、9割を超える（97.6％）結果となり、今回の調査では最も高い満足率を示した問となっています。なお、自由意見は、3件寄せられており、毎日楽しく登園している、子供のペースで過ごすことができている、園の活動が日々の生活に役立っているのご意見でした。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	40	2	0	0
保護者からの「はい」との回答は、9割を超える（95.2％）結果となり、今回の調査では高い満足率を示した問となっています。なお、自由意見は、2件寄せられており、成長のプラスになっている、食育をはじめとするイベントに子どもが積極的に取り組んでいるのご意見でした。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	37	5	0	0
保護者からの「はい」との回答は、約9割を占める（88.1％）結果となり、多くの保護者の理解を得られる結果となっています。なお、自由意見は、3件寄せられており、バランスの良い食事が提供されている、アレルギーに対応してくれている、良い食育になっているのご意見でした。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	38	2	1	1
保護者からの「はい」との回答は、約9割を占める(90. 5%)結果となり、多くの保護者の理解を得られる結果となっています。なお、自由意見は、3件寄せられており、コロナ前は老人ホームへ行っていた、コロナ下でも戸外遊びや行事を企画していた、いろんな公園に連れて行って欲しいのご意見でした。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	32	3	1	6
保護者からの「はい」との回答は、7割を大きく超える(76. 2%)結果となり、「いいえ」との回答も1件のみであることから、概ね保護者からの理解が得られた結果となりました。なお、自由意見は、2件寄せられており、すぐに対応してくれる、未利用のため分からないのご意見でした。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	27	10	2	3
保護者からの「はい」との回答は、6割を超え(64. 3%)る程度であり、園の取り組みが一部理解されていない様子がうかがえる結果となっています。なお、自由意見は、6件寄せられており、園外活動が不安、門扉が不安、ちよくちよくけがはするが大したケガではない、ケガした際には報告をくれる、定期的に訓練もしているので助かるのご意見でした。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	33	7	2	0
保護者からの「はい」との回答は、8割弱を占め(78. 6%)る結果となりました。なお、自由意見は、3件寄せられており、参加しにくい、事前にスケジュールのお知らせがあり助かる、土曜行事を増やしてほしいのご意見でした。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	34	5	2	1
保護者からの「はい」との回答は、8割を超え(81. 0%)ており、保護者から理解が得られる結果となりました。なお、自由意見は、6件寄せられており、先生により異なる、あまり話す時間はない、子どもたちが信頼していることがわかる、連絡帳等で子どもの様子がわかり子どもとのコミュニケーションがスムーズに図れるのご意見でした。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	33	9	0	0
保護者からの「はい」との回答は、8割弱を占め(78. 6%)る結果となりました。なお、自由意見は、5件寄せられており、ゴミが落ちていることが多い印象、清潔で整理されている、臭気が気になることがあるのご意見でした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	33	4	4	1
保護者からの「はい」との回答は、8割を超え(81. 0%)ており、保護者から理解が得られる結果となりました。なお、自由意見は、4件寄せられており、先生だけ靴を履いている、目も合わせず挨拶している先生がいる、気になったことはない、丁寧でいつも笑顔とのご意見でした。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	32	7	3	0
保護者からの「はい」との回答は、7割を大きく超え(76. 2%)の結果となりました。なお、自由意見は、6件寄せられており、子どもをしっかりと見ていないのでは、帰宅してからケガに気づくことがあった、ケガは都度知らせてくれ気にかけてくれる、体調が悪くなったらすぐに連絡をくれる、優しくいてねいに対応してくれるとのことのご意見でした。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	28	5	3	6
保護者からの「はい」との回答は、6割を大きく超え(66. 7%)るにとどまっており、園の取り組みが一部理解されていない様子が見え始める結果となっています。ただし、「知らない・わからない」とする割合も1割を超え(14. 3%)しているため留意が必要です。なお、自由意見は、4件寄せられており、臭気がする、よくわからない、不安、安心して任せられるとのことのご意見でした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	36	5	1	0
保護者からの「はい」との回答は、8割を大きく超え(85. 7%)の結果となり、保護者からの理解を得られる結果となっています。なお、自由意見は、4件寄せられており、先生によって異なる、子ども第一とは思えない、とてもよくしてくれている、子どもの気持ちが尊重されているとのことのご意見でした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	30	6	0	6
保護者からの「はい」との回答は、7割を超え(71. 4%)の結果となりましたが、「知らない・わからない」とする割合も1割を超え(14. 3%)しているため留意が必要です。なお、自由意見は、1件寄せられており、特にないとのことのご意見でした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	35	5	2	0
保護者からの「はい」との回答は、8割を超え(83. 3%)の結果となり、保護者からの理解を得られる結果となっています。なお、自由意見は、5件寄せられており、園のルール等をもう少し教えてほしい、定型句しか言わないのでわからない、毎日の連絡帳や降園時のお話で詳しくわかる、しっかり丁寧に教えてくれるとのことのご意見でした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	29	5	1	7
保護者からの「はい」との回答は、7割弱を占め(69. 0%)の結果となりましたが、「知らない・わからない」とする割合も1割を超え(16. 7%)しているため留意が必要です。なお、自由意見は、4件寄せられており、話す気にならない、不満や要望が先生に伝わっているかわからない、不安に思うことがない、不安や疑問に真摯に対応してくれるとのことのご意見でした。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	16	7	3	16
保護者からの「はい」との回答は、4割弱に(38. 1%)に留まるとともに、「いいえ」「知らない・わからない」とする回答の合計が「はい」との回答を上回る結果(7. 1%+38. 1%=45. 2%)となっており、外部の窓口の認知率の低さが目立つ結果となっています。なお、自由意見は、1件寄せられており、園長や先生に相談しており外部までの相談には至らないとの意見でした。				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
1	リーダーシップと意思決定	
	カテゴリ1	
	サブカテゴリ1 (1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
		7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
	○非該当	
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
◎あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
	○非該当	
	○非該当	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
	○非該当	
	○非該当	
	○非該当	
カテゴリ1の講評		
園の目指していることを明確にしています		
園の理念や目標、運営方針は、事業計画に掲載するとともに職員室内にも掲示しており、周知を行っています。園の目標は、園のしおりの冒頭にも掲載して、入園説明会や保育報告会の際に保護者に対して説明を行っています。この園のしおりについては、職員にも、入職時やしおりの内容が変更された時には配付し、理解が深まるようにしています。		
園長は、職員会議や保育報告会を通じて自らの考えを説明していますが改善が望まれます		
園長は、教育面にウエイトを置いた園の保育の在り方等について、月に2回実施される職員会議や日常の指導等を通じて職員に伝えるとともに、年1回の保育報告会で保護者に直接説明を行っています。今後、日々のコミュニケーションや配布物等を充実させる等より多様な手段で、分かりやすくメッセージを伝えていくことが期待されます。ただし、職員自己評価では、その様子が伝わっていない状況も見受けられます。伝え方を工夫する等、今後の改善が望まれます。		
園長を中心に意思決定し、決定事項は職員会議で周知しています		
保育に関する案件は、担任や担当者から提案し、乳児会議や幼児会議、保育会議などを経て決定しています。園運営に関する事項は、園長が必要に応じて、理事会に諮って決定しています。これらの決定事項は、月2回の職員会議を通じて全体に周知されており、保護者には都度、伝える必要があるかどうかを園長が判断して、伝える場合は文書を配付又は園内掲示にてお知らせしています。		

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
◎あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◎あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
◎あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
◎あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(0●)
評価	標準項目	
○あり ◎なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>アンケート等を活用して保護者の意見・要望・苦情を把握し、保育の向上に努めています</p> <p>保護者の意向は、各行事終了ごとに行うアンケートやクラスで実施している連絡帳、個別保護者面談などを通じて把握しています。アンケートについては、結果を集計し、保護者に提示し次回の行事等の開催の際に反映させているほか、連絡帳に記載された『気になるご意見』や苦情については、迅速に対応・説明を行うとともに、記録を行っています。また、対応・説明した内容については、会議を通じて全職員に周知を図っており、組織として情報共有するよう取り組まれています。</p> <p>各種計画を作成していますが、計画に関する考え方の抜本的な見直しが望まれます</p> <p>中期的な計画としては、園を開設する際に作成した計画があります。また、年度単位の計画としては、事業計画書がありますが、この事業計画書には、年度の取り組みとともにそれぞれの予算を示し、達成度合いを測る指標としているものの、具体的な目標設定等は実施できていません。なお、現状の通園児の減少や職員確保の困難さを踏まえれば、新たな中長期的な計画や個別課題に対する分析・計画化を図るなど一度抜本的な見直しと新たな計画策定が望まれます。</p> <p>計画の実施に当たっては、職員の担当を明確にして実行しています</p> <p>計画の実施にあたっては、年度初めに担当の職員を決め、分担表を作成して、個々の職員の役割等を明確にして、計画を実行するようになっています。計画の内容についても子どもの目線を大切にしながら、過去の取り組みや保育部会での取り組み・報告等、他の事例についても参照しながら、よりよい内容となるように注力しています。取り組みの経過や結果については、幼児会議や乳児会議、保育会議、職員会議など、それぞれの内容に応じた会議に報告等がなされており、園全体で取り組めるようにしています。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
標準項目		
評価		
◎あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
標準項目		
評価		
◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
◎あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
標準項目		
評価		
◎あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
◎あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
標準項目		
評価		
◎あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
標準項目		
評価		
◎あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
◎あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

園則や就業規則等を入職時に職員に配付し、説明を行っています

福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理は、まなざし保育園園則や就業規則、倫理規定等に明示しています。入職時には、これらの規定類を配付し、時間をかけて説明を行うようにしています。現在、在職中の職員が少なく、困難な状況ではありますが、非常勤職員を含めた全職員が様々な法・規範・倫理について学習する機会を定期的に設けていくことが期待されます。

苦情解決制度は整備していますが、保護者の認知は進んでいません

外部の第三者委員や市役所担当窓口については、入園のしおり等で周知を図っていますが、今年度の利用者調査でも認知率は4割弱にとどまっており、前回評価時と変わらない水準となっています。それ以前の評価でも認知率が低い状況は変わらず、懸案となっている事項ではありますが、引き続き、取り組みを進め、着実に認知率を上げていくことが求められます。

市の私立保育園の園長会や主任会に定期的に参加しています

地域の関係機関のネットワークとして、市の私立保育園の園長会や主任会、地域子育てネット等があり、園長や主任等が定期的に会合や研修に参加しています。会議の中では、地域の子どもの状況や各園の保育状況のほか、その時々感染症への対応方法や指導監査での指摘事項等について情報交換が行われています。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
◎あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ◎なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
◎あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
◎あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
◎あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
◎あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>毎月、避難訓練と子ども達への防災教育等を実施しています</p> <p>安全に関しては、運営方針の中にも充実していく旨が掲げられており、重点を置いている分野です。災害対策に関しては、毎月、地震や火災を想定した避難訓練や交通安全教室などが実施されています。感染症の予防等に関しては、マニュアルを備え、流行する時期には掲示物で保護者に注意を喚起するとともに、感染症サーベイランスに参加し、市内の感染症の動向について把握するようにしています。事故発生時には、内容や処置、反省等を記録した事故簿を作成し、記録化、共有化しています。</p> <p>保育支援の業務システムを導入し、事務の効率化と情報共有の促進を図っています</p> <p>子どもに関する各種情報や保育計画などの各種活動記録を管理するため、保育支援の業務システムを導入しました。職員はまだ慣れていない様子もうかがえましたが、事務の効率化と職員間の情報共有、また、情報の一元管理については、以前に比べて実現できているようになりました。業務システムの各種機能についてはまだ活用しきれていませんが、今後、保育との兼ね合いも見ながら園に最適な運用方法を確立していくことにより、より一層の効率と効果を生み出せるよう期待します。</p> <p>個人情報に配慮していますが、保護者への利用目的の明示等が期待されます</p> <p>個人情報保護規定には、園で扱う個人情報の利用目的を明確にすることや開示請求への対応方法を定めており、玄関横に設置して保護者が閲覧できるようにしています。また、職員向けに「個人情報マニュアル」を作成し、入職時に説明を行っています。今後に向けては、規定に則り、保護者等から個人情報を収集する際はその利用目的(開示・提供の範囲等)を明示するとともに、開示請求への対応方法等も保護者に分かりやすく伝えていくことが期待されます。</p>		

カテゴリ-5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(○●)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
○あり ◎なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(●●)
評価	標準項目	
○あり ◎なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
○あり ◎なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(○●●●)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
○あり ◎なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
○あり ◎なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
○あり ◎なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(○○●●)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賞金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
◎あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
○あり ◎なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
○あり ◎なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 1/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(○●●)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
○あり ◎なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気付きや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
○あり ◎なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

職員採用は法人で一括して実施していますが、人材の確保に課題があります

職員の採用は、法人が一括して応募、面接、採用を決定しています。採用後の各施設への配属、職員の役割分担やクラス配置は、本人の希望のほか、キャリアや経験年数を考慮して決定しています。ただし、現状、人材の確保に苦戦しており、人員配置的に余裕のない運営となっており、本課題の解消が引き続き急務となっています。人材サイトを活用することなどで問い合わせ自体は増えてきており、今後採用に結びつけるよう継続していくことが望まれます。

人を育てる部分を強化していくことが望まれます

人材育成に関しては、外部から研修案内がある都度、個々に参加を呼びかけています。保育担当だけでなく、給食担当も保健所や町田市保育協の給食部会に参加していますが、今まで実施されてきた法人主催の発達支援に関する勉強会は休止しており、また、職員数が少ないことが影響し、職員の研修参加が減少している状況となっています。職員の能力向上の希望は、個人目標で把握し、必要な支援に努めていますが、個人別の育成計画の作成までには至っていません。研修受講後は、レポートを提出し、時間が確保できた場合は、会議での発表も行っています。

休暇等が取りやすい環境を維持しています

本園では、職員が働きやすい環境の実現に向けて力を入れてきたところです。勤務体制は、完全週休2日の維持しており、希望休なども極力希望通りにとれるように配慮しております。残業も極力排しており、定時に切り上げられるようにしています。職員自己評価においても、休みやすい、定時で上がれるといった点を園の良いところとして評価する声が挙げられており、職員が実感している様子がうかがえました。

カテゴリ7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>子どもへの直接の保育以外の部分、特に書類作成については、多くの時間が割かれており、同じ文章等を複数の書類へ転記する必要があるなど、効率化を図る余地がありました。また、子どもや各クラスの様子を職員間で共有するにあたっては、口頭や資料配布のみでは迅速性や確実性の点で難しい部分もありました。そこで保育支援の業務システムを導入することにより、これらの課題の軽減化を図ることを行いました。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>保育支援の業務システム導入によって、一定程度の事務負担の軽減が図れていると推察されました。まだ、システムに慣れていない様子も見受けられ、打ち出した様式に従来の紙をコピーして張り付けてある書類があるなど、使いこなせていない部分はあるようですが、今後の継続的な取り組みに期待が持たれます。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

コロナ下では、日ごろの保育や行事等の開催にかなりの制限がかかっている状況にありました。しかしながら、コロナ禍が収束するに伴い、保育や行事も以前のように戻すこととなり、行事等の計画も改めました。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

保育や行事の開催については、特に外部との交流や保護者も参加する行事については制限が大きかったものの、概ねコロナ前のように実施することができるようになってきました。ただし、高齢者との交流については、先方の状況もあり難しいようですが、今後は期待されます。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
サブカテゴリ1の講評		
<p>園の情報は、ホームページやリーフレット等を通じて提供されています</p> <p>園の情報は市のホームページより収集し活用することができ、各種オンライン申請や書式のダウンロードができます。市の子育てサイトから入園の申し込みができるようになっていて、登園の施設の基本情報や保育の特色定員、延長料金などが園の様子がわかる写真、当園のアクセスなどが掲載されています。直接来園された方には、リーフレットとしおりを配付しています。</p> <p>法人が開設した園のホームページは、リニューアルする方向で動き出しています</p> <p>法人が開設した園のホームページについては、開設してから年月が経ち、情報が古くなっており、一部更新されているコンテンツはあるものの、園の今を伝えるものとはなっていません。こうした状況は、法人・園ともに認識しており、ホームページのリニューアルに向け、業者選定等に動き出しています。現状は、仕様を固め、最適な業者を選定する段階ではありますが、今後の取り組みが期待されます。</p> <p>利用希望者にはリーフレットとしおりをもとに説明し、見学後は質問に答えています</p> <p>利用希望者からの問い合わせがあった場合には、保護者から見学希望者と見学日時を決定して見学ノートに記入しています。見学者の対応は、園長もしくは主任、副主任が対応しています。見学は在園児に影響が内容に一日1～3組として、平日の午前中に実施しています。利用希望者には、子どもの活動の様子を見て参考にもらえるように配慮しています。リーフレットとしおりを基に園の方針や保育内容を説明し、園内を見学した後に質問する時間を設定しています。そのほかの時間帯の見学は、個別に相談し対応しています。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
◎あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
◎あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園に必要な事項を園長、各職種職員が説明して保護者の同意をもらっています</p> <p>入園が決定した保護者には入園時に必要な書類と重要事項説明書を郵送しています。保護者には事前に児童票や家庭調査票や、健康調査票などに記入してもらい、重要事項説明書(しおり)をよく読んでもらったうえで同意のサインをもらっています。個別面接では、必要書類の確認や保育室の使い方、持ち物などの説明をしています。入園説明会では、園長が園の保育方針や基本ルールを説明しています。また、健康上の問題や薬の与薬については看護師、食物アレルギーは看護師と栄養士、離乳食については担任職員と栄養士が個別に面接を行います。</p> <p>子どもや保護者の不安を軽減するため準備保育期間を設けています</p> <p>入園直後は保護者の不安を和らげ、子どもが安心して保育を受けられるように準備保育の期間を設定しています。準備保育は初めて集団生活に入る子どもの負担を和らげ、徐々に保育時間を伸ばして安心して園生活に慣れるために設けています。その期間は9日間として、9時からスタートしています。最初の3日間は11時(0歳児は10時半)まで園の雰囲気慣れ、その次の3日間は12時で給食を食べてみます。最後の3日間は午睡をして午後のおやつを食べる16時30分で、平常保育に移行しています</p> <p>転園や卒園後も支援の継続をしています</p> <p>途中転園の子どもの保護者に、転園を公にして良いかを確認のうえで、在籍のクラスで簡単な会をしてお別れのカードを渡しています。年度末には卒園する5歳児だけでなく、在園の子ども全員にお祝いとして進級カードを手渡しています。進級カードには担任や保護者からのコメントや写真が載っています。転園や卒園の親子には、不安なことがあった場合は相談に来てくださいと声をかけ送り出しています。また、園は子ども支援センターや学校との連携を取り、園を離れても支援の継続をしています。</p>		

サブカテゴリー3		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	13/13
3 個別状況に応じた計画策定・記録			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
◎あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
◎あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
◎あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
◎あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
◎あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
◎あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
◎あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリー3の講評			
<p>子どもの発達状況や生活状況は記録され、それぞれの計画に反映されています</p> <p>子ども一人ひとりの発達の様子や生活状況は、児童票や発達経過記録、健康記録など定められた様式書類に記載されています。月の計画は子どもの状況を確認してクラス単位で職員が作成しています。また、連絡簿や保護者との会話などを通して生活状況や子どもの発達状態をクラス担任同士で、子どものニーズや課題に合うように計画に反映しています。計画を立案するときは、子どもや保護者を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できるようにしています。月案には「家庭と一緒に」の項目を設け、や育児を保護者と一緒に取り組む姿勢があります。</p> <p>全体的な計画な計画を踏まえ、子どもの状況に配慮した指導計画を策定しています</p> <p>指導計画は全体的な計画をもとに年間指導計画を始めとして月や週の計画につながりを持たせています。計画には子どもの発達の道徳や興味、成長の見通しを持った内容が記載されています。年間保健計画は予想される子どもの活動から養護教育、環境構成と配慮、家庭と地域との連携、食育の項目に分かれ記載され、4期ごとの評価反省をしています。食育では、各年齢における食育月案指導計画と食育活動年間計画をもとに食育カレンダーを作成して、年齢別に様々な食育活動を行っています。</p> <p>個別の計画は保護者と連携を取り合い、情報を全職員で共有しています</p>			

0～2歳児の子どもと配慮が必要な子どもの個別の指導計画は、子どもの年齢や発達や心情、を組み、保護者からの情報を参考に家庭と連携を取りながら進めています。毎月の目標は各クラスに掲示し、えんだよりも日々の活動の様子を保護者に知らせています。また、個人面談や保護者会保育発表会などで園での様子や成長の道筋などを知らせ共有しています。職員は互いにコミュニケーションよく連携が取れるように、朝礼では子どもの体調や食物アレルギー献立、一日の予定などを伝達ノートに記載し、毎日の変化を共有しています。

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>個人情報の取り扱いについては保護者との同意書を取り丁寧に扱っています</p> <p>子どもに関する情報をたの期間とやり取りする場合は事前に保護者に同意を取っています。園でのけがで受診をする場合については、入園の際にしおりで確認したように、連絡が入ったら受診に同行するようになっています。個人情報の取り扱いについて各種写真、生年月日や名前、メールアドレス、保育所児童保育要録、転園先やほかの施設への連絡、緊急時に医療機関への情報提供については同意書を提出してもらっています。</p> <p>職員は自分の言動を振り返り、子ども一人ひとりを尊重するように努めています</p> <p>人権を尊重した基本姿勢を挙げた倫理規定を作成し、行動指針とし子どもの尊厳が守るように努めています。子どもの権利や自由を保障する、職員の言動、子どもへ対応、を始めとした項目を挙げて律しています。具体的にはNGワードでは、生活の場面や遊びの場面で言葉使いを具体的に示し、職員の叱る時や子どものけんかへの対応、保育士の言葉づかい、態度、子どもの呼び方は呼び捨てしないなどの確認ができます。</p>		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
◎あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>各種マニュアルが整備されていますが、整理して活用できるようにすることが望めます</p> <p>園では、災害時の対応マニュアルはまとめられており、保育業務に関するマニュアルについても散在している状況ではありますが、様々なマニュアルが整備されている状況です。見直しについても、都度、必要な表については実施されており、内容的には活用できる状況であるといえます。ただし、訪問調査の際もマニュアルが出てくるまでに時間がかかる等、整理され、活用できる状況にあるとはいえない状況です。マニュアルをまとめ、整理し、どの職員も一目瞭然として確認できるようにすることを期待します。</p> <p>マニュアルの内容等について法人理念を実現できるよう再構築することが望めます</p> <p>前述のようにマニュアルについては整備されている状況にありますが、内容的には、法人理念や園が大切に考えていることを保育等の現場に実践できるように作成されていません。マニュアルは、法人が求める保育の考え方やそれを実践する方法を具体的に定めたものと捉えれば、これらを再構築し、内容の改定を行うことが望めます。併せて、子どもの命にかかわる食物アレルギー対応や熱性けいれん、感染症にかかわる嘔吐処理、散歩マップ作成の検討など、現状不足している分野のマニュアル作りについても検討することも必要と考えられます。</p> <p>子どもの安全が守られるように訓練や安全点検などを行っています</p> <p>職員の救命救急訓練ではAED(自動体外式除細動器)の訓練実施しています。公園内の工事の情報がないかを職員で共有遊具の危険箇所を確認、ガラス破片やたばこの吸い殻がないか確認 園内で貴園箇所をチェックし合う体制があります。プールや水遊び前はマニュアルを確認して安全に保育できるようにして子どもの安全に対する意識を高めています。新型コロナウイルスが5類となり、行事や保育参加などを積極的に平常に戻し、質の高いサービスの提供のために職員の意識の持ち方や新しい取り組みへの工夫に努めています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(000000)		
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している			○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			○非該当
◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			○非該当
◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			○非該当
◎あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している			○非該当
評価項目1の講評				
<p>子ども一人ひとりの生活や発達状況は園が記録して職員が共有して保育に活かしています</p> <p>子ども一人ひとりの生活や発達状況は、日誌や指導計画、発達の経過記録などで把握しています。さらに連絡帳や保護者との会話から連続した保育ができるように子どもの全体的な姿をクラス内で共有しています。朝の情報、朝礼で保護者からの伝言や献立(アレルギー除去食や宗教食)、子どもの健康、今日の予定などを含めて報告し、各クラス職員が伝達ノートで確認しています。、そのほか必要に応じて定例の職員会議や保育会議、職種別の会議で把握し共有しています。各会議で把握したことは、クラス職員に報告し共有して保育に活かしています。</p> <p>子ども同士が互いを尊重し思いやりや労りの気持ちが育っています</p> <p>異年齢の交流の中で転んだ子を起こす お世話したい トイレではズボンをはかせるのを手伝うなどの姿があります。同じ年齢の場合、張り合い、けんかに発展することが、異年齢だと気遣いやさしく声をかけ思いやる気持ちで接しています。散歩の際には異年齢で手をつなぐことがあり、やさしくされてうれしいと思う気持ちや一緒に遊ぶことで年齢が大きい子どもの遊びを見てあこがれを持ち真似しようとしています。また、特別な配慮が必要な子どもと同じ空間でいることで、お互いが育ち合う姿があります。それぞれを思いやる気持ちが育っています。</p> <p>就学に向けて子どもが期待が持ち、生活できるように支援しています</p> <p>小学校見学では、校長先生に学校内を案内してもらい、授業の様子を見学して小学校の雰囲気を経験して就学に期待を持てるよう配慮しています。保育所児童保育要録や就学支援シートでは小学校への円滑な接続がはかれるように情報を共有しています。また、5歳児の春の懇談会では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を」目安に、説明をしています。また、見通しを持った生活や遊びをする、午睡を無くし上履きを使用する、持ち物の管理などを含め子どもが就学に向けて意欲的に取り組めるように工夫しています。</p>				

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
◎あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
◎あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園の対応は丁寧に行い、保護者と信頼関係を築けるように努めています</p> <p>登園の際は子どもの健康や家庭での様子を口頭で確認しています。0～2歳児は連絡帳の内容を確認して子どもを預かります。3～5歳児は出席ノートに自分でシールを貼離します。一人ひとりの体温は各保育室前のシートに保護者が迎えの人の名前を記入してもらっています。園での様子は迎えの際に、元気だったの一言だけでなくその子どものエピソードを伝えるようにしています。朝は保護者も忙しくゆっくり話ができないことを考慮して、お迎えの際には、園の様子を伝えたり、保護者の話を聞くなどゆっくり対応するように心がけています。</p> <p>基本的な生活習慣の自立に向けて発達や発育、意欲を見てゆとりを持ち援助をしています</p> <p>園は一人ひとりの発育や発達状態に応じて基本的な生活習慣の自立に向けた保育をしています。排泄、着脱などの援助の際に職員は、時間的にゆとりを持ち、子どもが意欲を持ち取り組めるように声がけしたり、手を添えるなどのタイミングを計っています。トイレに誘うタイミングは遊びに夢中になっている時ではなく、遊びの区切りを見て声をかける、着替えの際にさりげない援助をし、一人でできたことをほめる、「自分で」と言う場合は、見守り意欲を育てるように支援しています。子どもへの働きかけは職員が共有して統一した働きかけに努めています。</p> <p>子どもの年齢や体調、生活のリズムに配慮して休養が取れるようにしています</p> <p>子どもの生活状況や体調を保護者と共有して、園で休息の長さや時間帯に配慮しています。家庭での生活リズムや体調により休養が必要な子どもは、状況により早めに午睡に入り休養する配慮をしています。0歳児は月齢が低い場合、午前寝や夕寝が必要になり、子どもの状況により睡眠を取りその後の活動が安全にできるようにしています。また、就学に向けて、5歳児は12月より午睡を無くしています。子どもの体力や生活状況により眠くなってしまふ場合は臨機応変に対応しています。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(000000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
◎あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
◎あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが興味や関心を持ち遊ぶ環境作りを目指しています</p> <p>子どもの興味似合わせて、3～5歳児のコーナー遊びはままごとや積み木、ブロック、パズル、お絵かきなど数種類を設定しています。0、～2歳児は、職員が程度用意していますが、子どもが選択できる環境についての検討を期待します。園庭ではだるまさんが転んだや鬼ごっこ、運動会をきっかけに鉄棒や縄跳びにチャレンジする子どもがいます。園外では自然物で遊び、子どもがルールを考えて遊ぶ姿を見守っています。外部講師による体育指導は子どもに人気でマットや平均台、ボールなどを使い全身で遊運動会の競技に活かしています。</p> <p>言葉の獲得や語彙を増やし、言葉で表現する楽しさを味わえるように支援しています</p> <p>0、1歳児が泣く、笑う、喃語を発する、指さしをした時は、職員が代弁して言葉の獲得につなげています。絵本や紙芝居、手遊び模倣遊びなどの遊びを通して表現する楽しさを知ったり、ままごと遊びでのやり取りを通して語彙が増える働きかけをしています。運動会や発表会などの行事以外でも、日常的にお気に入りの曲でダンスを楽しみ、クレヨンでお絵かきを楽しみ、絵の具で染め紙をおひな様の着物にし、経験したことを描くなど様々な表現遊びをしています。5歳児は廃材を用意しておく、工夫して一つのものを作り上げる遊びを楽しんでいます。</p> <p>子どもは戸外遊びを通して五感で四季を感じる体験をしています</p> <p>天気の良い日は、園庭だけでなく、公園に散歩に出かけています。春は道すがら咲いている花を見て、長い草の蔓を見つけそれを電車に見立て遊んだり、雨の日にレインコートを着て雨を感じたり、夏は暑さをしのぐ木陰の存在にほっとしたり、秋はどんぐりや葉っぱを拾い集めて楽しんでいます。落ち葉の上を歩きかさかさという音を楽しみ、松ぼっくりををさわわり固い感触を味わうなど体で感じています。冬は気温が下がることを体感して雪が振った際には雪遊びをして、園の周りの自然を活用して四季の移り変わりを感じています。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>伝統文化や季節の行事などの行事を通して子どもの興味や関心の幅を広げています</p> <p>伝統文化の行事で日本の文化を知り、季節の行事などたくさん行事を経験しています。誕生会は、0～5歳児とその月の誕生日の子どもが主役となり園全体でお祝いをしています。夏祭りは浴衣や甚平を着て盆踊りや縁日ごっこを楽しんでいます。移動動物園で動物に触れたり、芋掘りなどからだで感じる体験もしています。運動会は2～5歳児が各年齢に適した競技やダンスを披露して楽しみ会では、3～5歳児が好きな物語を題材に劇遊びやオペレッタをして役になりきり、セリフを言うなどして劇ごっこやオペレッタを楽しんでいます。</p> <p>行事に意欲的に取り組むことで協力や労り、あこがれの気持ちが育っています</p> <p>5歳児は、運動会の組み体操の練習では立ち位置を交替し、互いの気持ちを理解し、リレーでは、早い遅いだけでなくクラス全員でバトンをつなぐことができる喜びを感じています。運動会参加の様子を見て、年上の子どもに刺激を受け真似やチャレンジして、運動会後の遊びにつながっています。楽しみ会の劇発表に向けては、役決めを子ども達で行い、意見を出し合い進めています。その後も役割を交替してクラスの枠を超えて劇遊びごっこの余韻を楽しむ姿があります。訪問当日は保育室内の発表会の写真を指差しうれしそうに教えてくれました。</p> <p>行事を通して子どもの成長を保護者と共有しています</p> <p>行事開催は、保護者参加の誕生会や夏祭り、運動会、お楽しみ発表会などコロナ禍前の状態に戻つつあります。園は、行事を通して子どもの成長を保護者と喜び確認し合います。子どもの取り組みの経過は、子どもの成長を確認する上で重要であることを保護者に知らせています。また、保護者には、行事ごとに登園時間や服装、準備物などのお知らせは適宜行い、子ども達の様子は、保護者にも楽しみになるように0～2歳児は日々の連絡帳や3～5歳児はクラスの活動を知らせるボード、各クラス前に活動の様子を掲示、えんだよりなどで伝えています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間保育の子どもが安心して過ごせる環境を工夫しています</p> <p>登園は朝7時から20時まで開所の園で、18時からは夕方の延長保育となり、5～10人ほどの利用者がいます。保育を担当する職員は基本的に正規職員とパート職員の2名で行っていますが、人数や状況により増やすことがあります。0～2歳児は、17時30分より合同になり、小さな量のスペースでゆっくり落ち着いて遊べるように配慮しています。3～5歳児は17時から合同保育で、18時からは全クラス合同となるため、安全を考慮して別のスペースに移動して遊ぶことがあります。また、事務室にあるおもちゃで特別感を持ち遊ぶことができます。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◎あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
◎あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
◎あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>食事はゆったりとした雰囲気で楽しく食べています</p> <p>0、1歳児は手づかみやスプーンフォークで意欲的に食べる様子が見られます。職員はテーブルに付き、ゆったりと子どものそばで 介助しています。子どもは友だちと、会話をして楽しそうに食べています。上手に食具を使っている子どもには、ほめて、周りの子どもの刺激になるような声をかけています。箸スプーンの持ち方や姿勢は、3歳児春の保護者会でプリントを渡し、園と家庭とが一緒に取り組むように働きかけています。3～5歳児はランチョンマットを使用し、自分の食事のスペースの意識やこぼさず食べる意識が身につくようにしています。</p> <p>献立には旬の食材を使い、個別の配慮が必要な献立の提供にも配慮しています</p> <p>献立は旬の食材を積極的に使用し、季節や行事に合わせて作成しています。月末には担任と給食室の職員が給食会議を開き、メニューや食べ具合、食材の大きさなどをすり合わせ、次月の献立の参考にしています。保育参加の後には、保護者に給食の試食をしてもらいます。給食は子どもからも保護者からも好評です。食物アレルギーや宗教食対応の子どもの食事は、クラス担任と調理室職員が食材の確認をして、トレイ使用や器の模様を変え、配膳をしてから時間差でほかの子どもの食事のワゴンが上がってくるシステムをとり、誤配を防ぎます。</p> <p>調理の食材の手伝いや野菜の栽培、クッキングなど多くの体験を取り入れています</p> <p>3歳児は枝豆、4歳児は、トマト、ひまわり、5歳児はきゅうりとトマトの栽培をして試食をしています。子どもは、年齢ごとにシメジ割きや玉ねぎの皮むき、絹さやの筋取り、野菜当てゲーム、出汁について学ぶ、味噌造りをして試食など素材に多く触れています。そのほかの食育活動は、スイートポテトやクレープ、ピザ、クッキー、パン作り、5歳児がイワシの手開きをして塩焼きで食べる体験をしています。園は、食育計画や食育カレンダーに沿い、食材に触れ、調理の過程を経験し、クッキングの楽しさを味わえるような機会を多く設定しています。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
◎あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>保健指導は看護師が中心となり子どもにわかりやすい方法で実施しています</p> <p>看護師は、2～5歳児対象にパネルシアターで手洗いうがいの保健指導をしています。クイズや手洗いの歌に合わせて実践して保健だよりで家庭にも知らせています。指導を行ったことで、手洗いの歌やポスターを見てしっかりと洗う姿が見られています。歯科検診では、人形を使い虫歯予防を楽しみながら学び、磨き方の確認をしています。次年度は歯科指導を歯科衛生士にしてもらう予定です。食事は健康につながることを話しています。園内外の危険箇所を確認チェックして子どもが安全に遊ぶことができるように配慮しています。</p> <p>保護者に子どもの病気や感染症の情報を提供して共有しています</p> <p>入園のしおりでは、子どもがかかりやすい感染症を掲載し保護者に知らせています。玄関には保健の情報や感染症情報を掲示し、保護者に情報を発信しています。保健だよりは2ヶ月に1回発行し、季節の感染症や毎朝の子どもの体調の確認のチェックポイントなどを知らせて子どもの健康について保護者と共有しています。乳幼児突然死症候群のチェックは0歳児は5分 1、2歳児10分間隔で子どもの呼吸や位などを確認して記録を取っています。また、AED(自動体外式除細動器)の救命救急訓練を実施して緊急時の対応を伝えていきます。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
◎あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
◎あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
◎あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評			
<p>保護者の就労や個々の事情などに配慮しています</p> <p>当園は立地上、車での送迎が多い園です。保護者から残業や道路の渋滞でお迎えが遅れるなどの保育時間の延長希望の連絡が入った場合は柔軟に対応しています。子育ての不安や疑問などを保護者から寄せられたときは、丁寧に相談に乗っています。また、園で開催する保育報告会では、全体の回の後に、「保育園から帰宅後の子どもとの過ごし方」というテーマで講座があり、子どもを受け止め自己肯定感を上げることや家族に甘える経験の大切さを学ぶ機会になっています。また、個々の事情がある場合は、担任が対応し職員と情報を共有してしています。</p> <p>保護者懇談会や連絡ノート、えんだより等で共通認識を図り信頼関係につなげています</p> <p>保護者懇談会や保育報告会では、子どもの様子や保育活動内容、各年齢の発達の特徴や遊び、生活で成長した子どもの様子を写真を添えて報告しています。そのほか運動会や発表会、保育参加で子どもの成長を保護者と共に確認しています。また、えんだよりや一日の活動を記載したボードには写真を掲載し、連絡ノートや職員との会話で日々の様子やエピソードを知らせ、特に連絡ノートは保護者に評価されています。幼児の体育遊びの写真を保育室前や階段の登り口に掲示して、保護者にたくさんの情報を提供し、信頼しにつながるように努めています。</p> <p>保護者が園の活動に参加することで子どもの理解につながるようになっています</p> <p>保育参観・参加保育を一定期間設け、0～2歳児の保育参観は、廊下から参観して、3～5歳児は、クラスに1家庭限定で保育に参加して、その後一緒に給食を試食しています。誕生会には、誕生月の子どもの保護者が、在園児と共に参加して感謝のコメントが寄せられています。保育報告会後は「保育園から帰宅後の子どもとの過ごし方」の講座を企画して、子どもを受け止め自己肯定感を上げることや家族に甘える経験の大切さを学んでいます。行事ごとアンケートをとり保護者の意見を確認していますが、それをフィードバックされると良いでしょう。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	
◎あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当	
評価項目9の講評			
<p>地域のさまざまな資源を活用し、子どもの生活の幅を広げています</p> <p>散歩は近隣にあるいろいろな公園に目的別に出かけています。1～3歳児は消防署に見学に行き、消防車に乗せてもらったり、抱っこをしてもらいなどの関わりがあり、警察署まで散歩に行くなどしています。5歳児は小学校見学や遠足、図書館に本を借りにいき、地域資源を有効に活用すると共に公共のマナーを学んでいます。園の隣にある畑には、さつまいもを植えてさつまいも掘りをしたり、移動動物園が来て動物に触れることができました。現在行事への招待は祖父母、兄弟まで広がっています。今後は地域の方との交流が進むことを期待します。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-2-1	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている
タイトル①	情報の管理を容易にし、事務の効率化と情報共有を容易にするよう取り組まれています	
内容①	これまでも情報の管理は職員室を中心としてPC・紙ともに厳格に行われてきました。一方、子どもに関する各種情報や保育計画などの作成や共有は、手書きや単体PCでの作成が中心で、多大な労力と情報共有を難しくする一因ともなっていました。そこで、子どもの各種情報、記録を管理するため、保育支援の業務システムを導入しました。事務の効率化と職員間の情報共有、また、情報の一元管理については、以前に比べて実現できているようになりました。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル②	休暇等が取りやすい環境を維持しています	
内容②	本園では、職員が働きやすい環境の実現に向けて力を入れてきたところです。前回評価でも取り上げていますが、法人として働きやすい環境づくりは大切に考えられています。勤務体制は、完全週休2日の維持しており、希望休なども極力希望通りにとれるように配慮しております。残業も極力排しており、定時で切り上げられるようにしています。職員自己評価においても、休みやすい、定時で上がれるといった点を園の良いところとして評価する声が挙げられており、職員が実感している様子がうかがえました。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	園と保護者の間で子どもに対する共通認識を図ることで信頼が築けるようにしています	
内容③	保護者には、園での子どもの様子を丁寧に伝えることで、園と保護者との間に共通認識を作り、保護者からの信頼につなげられるようにしています。保護者懇談会や保育報告会では、子どもの様子や保育活動内容、各年齢の発達の特徴や遊び、生活で成長した子どもの様子を写真を添えて報告しており、運動会や発表会、保育参加することで子どもの成長を保護者と共に確認しています。日常でも一日の活動を記載したボードには写真を掲載し、連絡ノートや降園時の職員との会話で日々の様子やエピソードを知らせています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園の給食や食育の活動は、子どもからも保護者からも喜ばれています
	内容	献立は旬の食材を積極的に使用し、季節や行事に合わせて作成しています。月末には担任と給食室の職員が給食会議を開き、メニューや食べ具合、食材の大きさなどをすり合わせ、次月の献立の参考にしています。保育参加の後には、保護者に給食の試食をしてもらいます。給食は子どもからも保護者からも好評です。また、3歳児から始まる栽培や調理の活動、年齢ごとに野菜の調理補助などのほか野菜当てゲーム、出汁について学ぶ、味噌造りなどの活動も展開され、食材に触れ、調理の過程を経験し、その楽しさを味わえるような機会を多く設定しています。
2	タイトル	行事は伝統などを学びながら楽しく参加できるように工夫されています
	内容	園では、行事を通して子どもの成長を保護者と喜び確認し合うことを大切に考えて行事を実施しています。それとともに伝統文化の行事で日本の文化を知り、季節の行事などたくさんの行事を経験することも大切にしています。夏祭りでは浴衣や甚平を着て楽しんでいたり、芋掘りなどからだで感じる体験もしています。運動会は2～5歳児が各年齢に適した競技やダンスを披露し、お楽しみ会では3～5歳児が好きな物語を題材に劇遊び等で役になり喜び楽しんでいます。なお、保護者参加の誕生会や夏祭り等の行事はコロナ渦前の状態に戻しつつあります。
3	タイトル	子ども同士がお互いに思いやることができる気持ちを育てています
	内容	異年齢での活動は、園舎の中での活動のほか、散歩等の戸外遊びや行事、また、延長保育時にもみられます。子どもたちは、こうした環境の中でお互いを尊重し、思いやる気持ちを育んでいます。異年齢の交流の中で転んだ子を起こすなどの姿があり、また、同じ年齢の場合は、張り合い、けんかにも発展することも異年齢だと気遣いやさしく声をかけ思いやる気持ちで接しています。散歩の際には異年齢で手をつなぐことがあり、やさしくされてうれしいと思う気持ちや一緒に遊ぶことで年齢が大きい子どもの遊びを見てあこがれを持ち真似しようとしています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園や法人が大切にしている理念を保育の現場に落とし込むマニュアルの整備等が望まれます
	内容	現在の園で整備しているマニュアルについては、体系的に整理されておらず、その内容も法人理念や園が大切に考えていることを保育等の現場に実践できるように作成されていません。マニュアルは、法人が求める保育の考え方やそれを実践する方法を具体的に定めたものと捉えれば、これらを再構築し、内容の改定を行うことが望まれます。併せて、子どもの命にかかわる食物アレルギー対応や熱性けいれん、感染症にかかわる嘔吐処理、散歩マップ作成の検討など、現状不足している分野のマニュアル作りについても検討することも必要と考えられます。
2	タイトル	人材の確保に向けた継続的な取り組みが望まれます
	内容	立地などの関係もあり、以前から、人材の確保は、重点課題として認識され、様々な取り組みがなされてきました。今年度の評価でも、職員の採用リソースに人材サイトを加えることによって、問い合わせ件数を増加させるなど、一定程度の成果はあげることができました。しかしながら、職員数が少ないことは、現場に余裕がなくなり、研修等の職員が育つための環境にもよい影響を与えないことから、今後も引き続き継続していくことが望まれます。
3	タイトル	職員を育てることに力を入れていく必要があります
	内容	人材育成に関しては、外部から研修案内がある都度、個々に参加を呼びかけており、保育担当だけではなく、給食担当も研修に参加していますが、法人主催の発達支援に関する勉強会は休止しており、また、職員数が少ないことが影響し、希望は優先されるものの職員の研修参加機会が減少している状況となっています。職員の能力向上の希望は、面談等で把握していますが、職員の成長の先を見通した形での個別の育成計画はありません。園では現状でも計画策定に必要な情報を把握できていることから、書式を整え、職員に分かりやすく提示することが望まれます。